

第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）に対する  
パブリックコメントによる意見の概要と市の考え方

【意見1】

意見の内容	市の考え方
<p><b>【P2 3基本方針】</b> <b>地域内経済という視点から街づくり</b></p> <p>SDGsの理念を市政に生かすことは評価できるが、スローガンや理念をそのまま方針とすることは問題があると思う。</p> <p>昨年北斗市では市長なども参加するSDGsの学習会があり、大事なことはSDGsのターゲットをローカライズすることと学んだ。</p> <p>私は地域創生の方針として「地域内経済」をあげべきだと考える。</p> <p>地産地消、できるだけ地域で賄うこと。エネルギーもできたら。石油は中東から、農産物はアメリカからなど、輸送に多くのエネルギーやパーチャルウオーターが使われている。もったいない。</p> <p>地域内経済を目指す下川町から地域再生のために学べるものがあると思う。</p> <p>北斗市も今ある宝ものの活用と宝ものを発見しながら地域内経済という視点から街づくりを考えていただきたいと思う。</p>	<p>第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、SDGsを原動力とした地方創生を基本方針としており、将来にわたって持続可能な地域社会を構築すること、さらには、SDGsという共通のゴールを目指す官民の垣根を超えた多様な主体のマッチングを図ることにより、新たなビジネスチャンスの創出につなげることを目的としております。</p> <p>そのためには、市内の各種団体や民間事業者を対象としたSDGsに関するセミナーの開催や未来を担う子どもたちへSDGsに関する学習機会を提供するなど、市民全体へSDGsの理念を浸透させていくことが重要であると考えております。</p> <p>SDGsが浸透することにより、ご指摘いただきました「地域内経済」という視点からのまちづくりやその他の地方創生に関する様々な動きが波及的に生まれ、地域全体の活性化が図られていくものと考えております。</p>
<p><b>【P3 4基本方針】</b> <b>市民の声と力を街づくりに</b></p> <p>目標は4つあるが、順番として目標1に「住み続けたいという暮らしの環境をつくり守る」をあげたい。大事なことは住民が住み続けたいと思うことだと思う。</p> <p>コロナウイルス感染症の問題が起き、中国依存、観光依存の日本経済の脆弱性も露呈するなど、今回の問題から何を学ぶかが大きな課題となっている。</p> <p>コロナウイルス感染症の問題を踏まえ、新幹線、観光、企業誘致など外部の力を借りない戦略もあるのかなと思う。</p> <p>推進方策には市民の声を市政に反映させるとある。「地方自治は民主主義の学校」であり、具体的にどう市民の声を生かすか、その機会の拡充と反映の仕方について具体的に方策として記載してほしい。</p> <p>また、市内には様々な技能を持つ多くの退職した高齢者も多い。こうした方々は街づくりに貢献できるとともに、高齢者自身の生きがいにもなると思う。ぜひ高齢者にその機会を与えていただきたいと思う。特に技能はないが、私も街づくりに協力したいと思っている。</p>	<p>4つの基本目標のうち、1つ目は地域経済の活性化に関する目標、2つ目は主に社会動態や交流人口の拡大に関する目標、3つ目は出生率の向上や子育て・教育の充実に関する目標であり、4つ目の「住み続けたいという暮らしの環境をつくり守る」という目標は、これら3つの目標を達成するための基本となる目標として最後に掲げさせていただきました。</p> <p>市民の声を市政に反映させるため、本戦略の推進にあたっては、庁内検討会議における確認や検証を行うほか、産官学金労言の代表者、学識経験者並びに一般市民から構成される北斗市総合戦略検討・推進会議において、進捗状況を評価・検証し必要に応じて施策や事業の見直しを行います。</p> <p>また、その結果については、ホームページで公開するなど広く市民へお知らせし、ご意見をいただくことで、市民と行政とのパートナーシップを構築することができるよう努めてまいります。</p> <p>なお、高齢者のまちづくりへの貢献については、基本目標4の主要施策(2)「市民総活躍社会の構築」の中で、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、全ての市民の活躍機会の創出と環境整備を推進することとしており、高齢者の様々な技能や豊富な経験を活かしていただきながら、地域共生社会の実現を進めてまいりたいと考えております。</p>

意見の内容	市の考え方
<p><b>【P7 基本目標1 主要施策(2)】</b>  <b>工場夜景と道の駅</b></p> <p>高規格道路の北斗市中央から茂辺地方面に数分走った所にちょっとだけ函館湾、セメント工場（工場夜景も）を一望できる道の駅の立地としては最高の場所がある。</p> <p>建設資金が必要だが、この場所に道の駅をつくってはどうか。</p> <p>北斗駅からトラピストまで、道南農業試験場、きじひき高原、八郎沼、セメント工場や峯朗鉦山、葛登支岬灯台、ブドウ園とトラピストなどを結ぶ観光コースができる。</p> <p>道の駅ができると雇用も生まれ、1次産品の需要も生まれる。6次産業の可能性も。外部の力を借りてもいいが、地域内の力でやってみたいものである。</p>	<p>ご指摘の場所は、函館・江差自動車道の北斗茂辺地ICから北斗富川IC方向へ3.5kmほど進んだ館野高架橋付近に位置する高台で、弧を描く函館湾や太平洋セメント上磯工場から海上へ延びる日本一長い栈橋のほか、遠くは津軽海峡を越えて青森県まで一望することができる景勝地と認識しております。</p> <p>この場所へのパーキングエリア的な面整備に関しては、道路管理者である函館開発建設部と非公式ながら事務レベルで協議をした経緯があり、整備にあたっては、高規格幹線道路本線から相当な距離の進入路が必要となるため、立地条件上からもその用地を確保することは困難であると考えております。</p> <p>ご意見のとおり、「道の駅」は地域の賑わいを創出できる施設として様々な機能を持ち合わせており、雇用の創出や新商品の開発拠点などといったことも期待できますが、建設にあたっては、場所の選定やかかる費用と見込まれる効果を十分に勘案し、検討する必要があると考えております。</p>
<p><b>【P7 基本目標1 主要施策(2)】</b>  <b>駅の外でのイベントでなく駅内の活用を</b></p> <p>北斗駅の観光案内所を他の町にも開放し、北斗市、七飯町、函館市の総合案内所にしてはどうでしょうか。他の町に貸しをつくるという戦略はどうでしょうか。三者で駅の活用を見直しては。</p> <p>時間帯や季節による旅客数を把握することが必要だが、新幹線から在来線に乗り継ぐ方が多いという状況を踏まえ、新幹線ホームに昔ながらの風景を再現してもいいのかなと思う。</p> <p>弁当の立ち売り、立ち食いソバ屋など。駅の外でのイベントでなく駅の中でのイベントとして実施する。</p>	<p>ご指摘の施設は、新函館北斗駅と併設して市が建設した「北斗市観光交流センター」の観光案内所ですが、ここでは、北斗市、七飯町、函館市をはじめとした南北海道や青森県の観光情報のほか、インバウンド対応として英語対応ができるスタッフが常駐し、広域観光や交通情報などを提供しております。</p> <p>令和元年9月には「北斗市観光交流センター運営計画」を専門事業者によるコンサルティングのもと策定し、ハード面・ソフト面の両面から活性化に資する取り組みを進めているところです。</p> <p>賑わいをつくり、より多くの方に利用していただくことで、その機能が発揮され、向上していくものと考えております。</p> <p>次に駅の活用方法ですが、これまでも本市と近隣市町が連携を図りながら、JR北海道が企画する団体列車のお出迎えやお見送りをを行っているほか、臨時列車内で特産品を販売した実績があります。</p> <p>ホームやコンコース内は、JR北海道の所管ということもあり、お弁当や軽食などを常時販売する際には協議が必要となりますが、今後、これらの商品を販売するしないに関わらず、駅から人が出ないという弱みを「駅ナカ」に視点を変えて何らかの事業を展開することは有益であり、今後の具体的な事業の実施にあたり参考とさせていただきたいと考えております。</p>

意見の内容	市の考え方
<p><b>【P19 基本目標4 主要施策(1)】</b>  <b>啓蒙、発信より学習会の開催を</b>  この北斗市の地域戦略もそうだが、発信するだけでなく、説明会や学習会の開催をしたほうが良い。それは住民に問題提起し、考えてもらうことが市政において大事であるからである。  面倒なことだが、ここをクリアすることが今後の市政の展望につながると思う。  市民に答えを考えさせてはどうでしょう。  これこそが地域力になると思うが。</p>	<p>いただきましたご意見のとおり、行政から一方的なものにならないよう、ワークショップなど参加型のセミナーを実施し、市民のみなさまと一緒に考える場も作っていきたいと考えております。  コミュニティ意識の醸成や地域活動の活性化を通して、市民協働のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>
<p><b>SDGsについて学校教育の場での取り組みの強化</b>  学校では吹奏楽を通じて、ボランティア活動などを通じて地域とつながりを持つが、まだまだ教育現場ではSDGsが浸透していない。  社会科での学習や生徒会などの活動を通じて学校をどうつくるか、地域との関係を、北斗市の地域創生について子ども達に考えさせてみたい。  そのためにも小学校社会科副読本もあるが地域を学ぶ学習の充実もお願いしたい。  また、大野地区には郷土史研究者も多く、地域をよく知っている方が多くおられる。  地域文化を観光に生かす知恵をお借りしてはどうだろう。</p>	<p>令和2年度より小学校から実施される新学習指導要領には、SDGsの理念が盛り込まれ、「持続可能な社会の創り手」を目指した教育活動が本格的に始まります。  北斗市の地域創生について、青少年の主張大会では「夢を語ろう わたしたちが創る未来の北斗」をテーマに小学生・中学生・高校生が未来の北斗市について発表を行い、子ども議会では北斗市のまちづくりに関して小学生・中学生・高校生が提案や質問を通して議論し、広報誌では中学生・高校生と考える「北斗市のまちづくり」の企画として、現在北斗市がかかえる行政課題に関して自由なテーマから意見を取りまとめていただき連載するなど、児童・生徒がまちづくりに参画する意識の醸成を図っております。  地域を学ぶ学習の充実という点については、ふるさと学習の取り組みを進めており、総合的な学習の時間や土曜授業などで地域の素材を生かした「調べ学習」や「体験学習」を行い、地域の歴史・文化の伝承などを目的に社会科副読本を活用した「ほくと学ジュニア検定」を実施しております。  また、コミュニティ・スクールにより、地域における課題に学校が主体となって取り組み、地域活性化に向けて活動しております。  地域文化を観光に活かすという点については、今後歴史や文化を活かした着地型観光の取り組みを進めるにあたり、地域の方々の意見を参考にしてみたいと考えております。  基本方針に掲げるとおり、未来を担う子どもたちに対するSDGsに関する学習機会の提供に努めてまいります。</p>